キャラクター名: 小響　歌織(こひびき　かおり)

プレイヤー名:

シンドローム	キュマイラ ハヌマーン	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	
オプショナル		年齢		性別	
覚醒	渇望	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0			5
感覚	1	0	0			1
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	31
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
C:ハヌマーン	3	2						
効果：	C-Lv							
ターゲットロック	2	3	セットアップ					
効果：	対象選択、ダメージ+[Lv*3]							
完全獣化	1	6	マイナー					
効果：	【肉体】判定D+[Lv+2]							
破壊の爪	1	3	マイナー					
効果：	素手変更							
神獣撃	3	2	メジャー				80	
効果：	攻撃+[Lv+2]D、《完全獣化》解除							
殺戮の獣牙	3	6	マイナー				120	
効果：	攻撃+[Lv+2]D、HP-5							
バトルビート	3	2	マイナー					
効果：	判定D+Lv							
一閃	1	2	メジャー					
効果：	全力移動後に攻撃							
ライトスピード	1	5	マイナー				100	
効果：	メジャーを二回行う、C+1							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

どこにでもいる、フツーの女子高校生……とは仮の姿！その正体は、正義の組織UGNに所属するエージェント、小響歌織とは私のことだよ！
ちょっぴりドジだけど、歌が大好きで、底抜けに明るい性格で、誰かの笑顔を見るのが大好きなんだ！だから、怖くても敵を倒して頑張るんだ！！

……とは本人の談。その本質は「誰かを助けないと気が済まない」という、偏執的なまでの奉仕精神である。
誰かが困っていれば咄嗟に手をさし伸ばしてしまうその性格のせいで、何度も何度も自分にばかりしわ寄せが来ている。駅で困っている人に貸した電車賃は戻ってくることは無いし、困ったお婆ちゃんを助けても学校のチャイムは待ってくれない。
それでも、彼女は誰かの笑顔を見るのが大好きで、自分のことを省みるのはニの次でしかない。

その理由の一つは、複雑な家庭環境にある。
彼女の父親が、人を殺めてしまったと警察に連行されてから、周囲の人々からは散々な扱いを受けた。
親類からは縁を切られ、被害者の想いや、無関係であろうと容赦なく浴びせられる罵詈雑言の数々……。
ずっと悲しそうな顔ばかりしていた母親を思うと、少しでも笑顔にさせてあげたいという思いばかりが募り、自分の悲しみの感情に蓋をして誰かを笑わせることに邁進するようになる。

彼女がよく口にする「へいき、へっちゃら」という言葉は、あまり顔も覚えていない父親の口癖だったりする。

そんな彼女が覚醒したのは、いつも通り人助けをしていた時。その時はたまたま、助けなきゃいけない人に襲い掛かってくるものに、一般人が対処できるものでは無かった。
偶然にもUGNとFHエージェントの抗争に巻き込まれた彼女は、無謀にもUGNのエージェントを助けようとして、その手が及ばず目の前で命が散りゆくのを見せつけられる。しかし、UGNエージェントは笑って「君だけでも逃げてくれ。その笑顔を絶やさないでくれ。」と言ってこと切れる。
……そこからしばらくは記憶が無い。無我夢中でエージェントが握っていた石を掴み上げて立ち向かった所まで覚えているから、目の前に誰も居なくなったのはおそらく撃退に成功したということだろう、とそこまで判断してUGNに保護されたのである。最後まで、路地の隅に積み上げられた肉片に気付くことは無かった